

天文学とプラネタリウム

第124回



今月のお題

宇宙に触れる機会

宇宙との触れあい方は人それぞれ。色々な方法で宇宙を感じられるイベントが続くこの季節に、宇宙とのつながりを改めて考えます。



六本木天文クラブ好評開催中!



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

この夏は、宇宙をテーマにした大規模なイベントが続きます。東京都現代美術館では8月31日まで『ミッション [宇宙 × 芸術] コスモロジーを超えて』展が、千葉の幕張メッセ国際展示場では『宇宙博 2014』が9月23日まで開催されます。イチ宇宙好きとして、こうしたイベントが続くのはうれしいですね。

[宇宙 × 芸術]展のほうは、H-IIA ロケットのフェアリングや国際宇宙ステーションで行われた宇宙芸術実験の様子といったストレートな宇宙モノと、宇宙や人工衛星にインスピレーションを得て芸術家が製作を行った作品とが並べられています。普段わりと科学的な面から宇宙を眺めることになれている筆者には、芸術家の感性をくぐって表現された宇宙の姿は目新しく映り、興味深いものもありました。感性のフィルタが濃すぎて何を表現したいのか理解しかねるものもありましたが、これは多分見る人の感性によっても感じ方が変わるのでしょう。

一方宇宙博 2014 は「NASA・JAXA の挑戦」という副題を掲げているだけあって、宇宙ステーション日本モジュールの実物大模型や火星探査

車キュリオシティの模型、アポロやジェミニなど NASA/JAXA のそうそうたるプロジェクトの実物大模型がたくさん。国立天文台や国立極地研究所、高エネルギー加速器研究機構も「宇宙」に挑む機関として展示物を出展しています。なんせ実物大の展示が多いので迫力は十分。夏休みの親子連れでにぎわう様子が目に浮かびます。

宇宙を知覚する方法は、もちろん天文学的な視点だけでなく宇宙開発や絵画、詩歌、舞踊などさまざま。私たち天ブラでも、美術館で宇宙をテーマにしたサイエンスカフェを企画したり新築マンションのモデルルームで天文教室をひらいたり、普段の宇宙に何か一味違うものを絡めることによって宇宙以外に関心を持つ方にも手を伸ばしていただくという試みが続けられました。そうした企画で得た新たな人脈からさらに隣分野とつながって、また新たな層の前に宇宙を置くことができるという良いサイクルも回り始めています。そう考えてみると、宇宙とつながりそうでまだつながっていないところというのは意外にたくさんありそう。そしてそういう協力関係を築くときに意識しているのは、興味のない人にまで押し付けるのではなく、



設営中の宇宙博アルマ望遠鏡ブース。実物大模型に囲まれた1/20スケールアンテナ模型はかわいさを感じられます。

関心のある人がちょっとでも手を伸ばせば届くところに置く、という絶妙な距離感。「宇宙は面白い」と私たちは思っていますがそれを盲信して押し付けるのではなく、いったん一歩引いてみて、冷静に宇宙と対象の関係を捉えなおしてから企画を進めるとうまくいく場合が多いようです。これは私たち自身が宇宙の新しい見方に気付く良いきっかけにもなります。こうして自身の中での宇宙が広がっていくのを感じられるという喜びも、いろんな活動の原動力の一つになっているのかもしれない。

124

124